

# 中学校第3学年国語科における 「読むこと」の能力を育成する学習指導に関する研究

- 三つの学習を位置付けた単元指導計画の作成をととして -

## 《補助資料目次》

1	単元の指導と評価の計画表（中学校第3学年国語科）	1
2	試案に基づく単元指導計画	2
3	実践において修正した単元指導計画	3
4	「生き物として生きる」の授業展開案	4
5	「説得力のある文章を書こう 意見を主張する」の授業展開案	15
6	実践で用いた学習シート	21
7	事後テスト問題と解答	32

学習シートと事後テストで使用したイラスト

- ・「一太郎テンプレート・イラスト集」, ジャストシステム
- ・「フリー素材 イラスト ビジネス 職業のソザイヂテン」(<http://www.sozaijiten-business.rash.jp/>)

事後テストで使用した図

- ・影山明仁(2008), 『名作マンガの間取り』, ソフトバンククリエイティブ株式会社
- ・大鷹 真(2008), 『スキルアップシート』, 岩手県立総合教育センター長期研修生(1年)

平成21年1月7日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生(1年)  
所属校 北上市立上野中学校  
菊池良弥

# 1 単元の指導と評価の計画表（中学校第3学年国語科）

単元名	論理の展開	時数	光村図書
教材名	1 「生き物として生きる」中村桂子	5	P.140～P.145
	2 説得力のある文章を書こう 意見を主張する	5	P.146～P.150
	3 文法の広場 コミュニケーション	1	P.151
	4 漢字 反対の意味の熟語・似た意味の熟語	1	P.152～P.153

## 本単元での重点領域 → 「読むこと」

### 指導と評価の計画

学習指導要領の内容(指導事項)	【読むこと - イ】 文章の論理の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，内容の理解に役立てること
	【読むこと - ウ】 文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること
	【読むこと - エ】 文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと
単元の目標	<b>【読イ】</b> 論理展開をとらえ，筆者の主張の根拠を読み取る <b>【読ウ】</b> 文章を比較して読むことをとおして，教材文の論理展開と主張を評価する <b>【読エ】</b> 根拠を明確にして意見交流し，教材文の理解と自分の考えを深める

評価の観点	国語への関心・意欲・態度	「読むこと」の能力（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を含む）
単元の評価規準	説明的文章を理解する学習や比較して読む学習，考えを表現する学習に興味関心をもって取り組んでいる	<b>【読イ】</b> 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ，内容を理解している <b>【読ウ】</b> 文章を読み比べ，構成や展開，表現の仕方などを評価している <b>【読エ】</b> 文章を読んで，人間，社会，自然などについて考え，自分の意見を表現している

### 本単元における「三つの学習」

既習事項を用いて読む学習	比較して読む学習	考えを表現し交流する学習
1 「生き物として生きる」 ・説明的文章を解釈するための方法をこれまでの学習を踏まえて想起し，想起した事項を用いて読む <b>【読イ】</b> 2 説得力のある文章を書こう ・お互いの意見文を，主教材で学んだ構成などを想起しながら読む <b>【読イ】</b>	1 「生き物として生きる」 ・「生き物として生きる」と「生き物はつながりの中に」を比較しながら読むことで，構成や論の展開の仕方，主張について評価する <b>【読ウ】</b> 2 説得力のある文章を書こう ・お互いの意見文を比較して読み，よさや改善点について評価する <b>【読ウ】</b>	1 「生き物として生きる」 ・既習事項を用いて読み取ったことの確認をする <b>【読イ】</b> ・比較して読む学習での考えの交流をする <b>【読エ】</b> 2 説得力のある文章を書こう ・意見文を書く学習において，お互いの意見文の評価や意見交換をする <b>【読イ・エ】</b>

2 試案に基づく単元指導計画

次	時	学習目標	主な学習活動	三つの学習			具体的評価規準(読むこと)
				既習事項を用いる学習	比較学習	交流学習	
一	1	<p><b>「生き物として生きる」 中村桂子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読むための手だてを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章を読むための必要項目を確認する</li> </ul>	<p>説明的文章読解の手だての想起</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章を読むために必要な項目を最低一つは想起でき、挙げられたものをノート(学習シート)に整理して書くことで、確認している</li> </ul>
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想起した手だてを用いて、教材文を読み取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に想起した内容を用いながら、教材文を分析し、構成や論の展開(内容)、筆者の主張をとらえる</li> </ul>	<p>想起した手だてを用いての読み取り</p>		<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に想起した内容を用いて、教材文の構成などを分析して読み取り、それぞれの内容を学習シートにまとめている</li> <li>・まとめたことを交流して確認し、理解したことの確認や修正ができています</li> </ul>
二	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成や展開、主張を他の文章と比較することで、教材文を評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副教材と教材文の形式を比較することで、主張を導くための論の展開の妥当性を考える</li> </ul>	<p>副教材の分析</p>	<p>主教材と副教材</p>	<p>比較内容の確認と評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主教材と副教材をを比較し、展開の妥当性について考え、根拠を基に説明している</li> <li>・交流をとおして自分の考えを述べるとともに、比較からとらえた効果的な主張の述べ方について、学習シートにまとめている</li> </ul>
三	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を要約するとともに、筆者の主張に対する自分の考えをもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の内容を要約し相互評価し合う</li> <li>・筆者の主張に対する自分の考えをもち、意見交流する</li> </ul>	<p>要約の判断</p>	<p>教材と他者</p>	<p>意見交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を要約するために主張や根拠などの項目を選び、原稿用紙一枚程度の長さにとりまとめて書いている</li> <li>・筆者の主張に対する自分の考えを、根拠を基に述べ交流している</li> </ul>
四	6	<p><b>説得力のある文章を書こう 意見を主張する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張、構成、根拠など、意見文の書き方について確認し理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習内容を想起する</li> <li>・教材の例文を用いて、意見文の書き方を理解してまとめる</li> </ul>	<p>例文の分析</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を想起しながら意見文の書き方をまとめるとともに、これまでの学習を生かして例文を分析して発表している</li> </ul>
五	7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを見つけ構成を工夫しながら意見文を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文のテーマを決め構成などを検討する</li> <li>・構成や論の展開など、今までの学習を生かして意見文を書く</li> </ul>	<p>様式の活用</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主教材に関連したテーマや社会生活、学校生活などからテーマを選び、これまで学習してきた内容を生かしながら、構成や論の展開を工夫して、原稿用紙三枚程度の意見文を書いている</li> </ul>
六	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流をとおして、お互いの意見文を評価し、修正する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの意見文を読み合い、評価し合う</li> <li>・自分の意見文を見直し修正する</li> </ul>	<p>様式の判断</p>	<p>自分と他者</p>	<p>相互評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの意見文を読み合い、構成や論理展開をとらえ、よさや改善点を指摘している</li> <li>・交流で指摘を受けたことを参考に、自分の意見文を修正している</li> </ul>

3 実践において修正した単元指導計画

次	時	学習目標	主な学習活動	三つの学習			具体的評価規準(読むこと)	
				既習事項を用いる学習	比較学習	交流学習		
一	1 ・ 2	<p>「生き物として生きる」 中村桂子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読むための手だてを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読むための必要項目を確認する</li> </ul>	<p>説明的文章読解の手だての想起</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章を読むために必要な項目を最低一つは想起でき、挙げられたものをノート(学習シート)に整理して書くことで、確認している</li> </ul>	
				<p>想起した手だてを用いての読み取り</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に想起した内容を用いて、教材文の構成などを分析して読み取り、それぞれの内容を学習シートにまとめている</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想起した手だてを用いて、教材文を読み取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に想起した内容を用いながら、教材文を分析し、構成や論の展開(内容)、筆者の主張をとらえる</li> </ul>	<p>想起した手だてを用いての読み取り</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人学習、全体確認をとおして序論の内容を読み取り、学習シート問題1の部分を記入している</li> </ul>	
				<p>想起した手だてを用いての読み取り</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習、全体確認をとおして本論と結論の内容を読み取り、学習シート問題2、問題3の部分を記入している</li> </ul>
				<p>想起した手だてを用いての読み取り</p>		<p>考えの交流</p>		
二	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成や展開、主張を他の文章と比較することで、教材文を評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副教材と教材文の形式を比較することで、主張を導くための論の展開の妥当性を考える</li> </ul>	<p>副教材の分析</p>	<p>主教材と副教材</p>	<p>比較内容の確認と評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主教材と副教材をを比較し、展開の妥当性について考え、根拠を基に説明している</li> <li>・交流をとおして自分の考えを述べるとともに、比較からとらえた効果的な主張の述べ方について、学習シートにまとめている</li> </ul>	
三	7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を要約するとともに、筆者の主張に対する自分の考えをもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の内容を要約し評価し合う</li> <li>・筆者の主張に対する自分の考えをもつ</li> </ul>	<p>要約の判断</p>	<p>教材と他者</p>	<p>意見交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を要約するために主張や根拠などの項目を選び、原稿用紙一枚程度の長さにとりまとめて書いている</li> <li>・筆者の主張に対する自分の考えを、根拠を基に述べ交流している</li> </ul>	
四	9	<p>説得力のある文章を書こう 意見を主張する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張、構成、根拠など、意見文の書き方について確認し理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習内容を想起する</li> <li>・教材の例文を用いて、意見文の書き方を理解してまとめる</li> </ul>	<p>例文の分析</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を想起しながら意見文の書き方をまとめるとともに、これまでの学習を生かして例文を分析して発表している</li> </ul>	
五	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを見つけ構成を工夫しながら意見文を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文のテーマを決め構成などを検討する</li> <li>・構成や論の展開など、今までの学習を生かして意見文を書く</li> </ul>	<p>様式の活用</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主教材に関連したテーマや社会生活、学校生活などからテーマを選び、これまで学習してきた内容を生かしながら、構成や論の展開を工夫して、原稿用紙三枚程度の意見文を書いている</li> </ul>	
六	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流をとおして、お互いの意見文を評価し、修正する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの意見文を読み、評価し合う</li> <li>・自分の意見文を見直し修正する</li> </ul>	<p>様式の判断</p>	<p>自分と他者</p>	<p>相互評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの意見文を読み合い、構成や論理展開をとらえ、良さや改善点を指摘している</li> <li>・交流で指摘を受けたことを参考に、自分の意見文を修正している</li> </ul>	

4 「生き物として生きる」の授業展開案  
 主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第一次・第1時）

(1) 目標

- ・ 説明的文章を読むための手だてを、これまでの学習の中から想起して確認し、次時の学習で使えるように理解する

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 20分	1 学習に入る前の準備として、範読を聞きながら読めない漢字語句や意味の分からない字を確認する 2 読めない漢字語句と意味の分からない漢字を調べる 3 「生き物として生きる」を音読する 4 「生き物として生きる」がどのような文章の種類であるかを考え、本時の課題を確認して、学習の見通しを持つ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークなどを使って予習をさせたり、教え合いなどで解決させたりするなど、あまり時間をかけないようにする</li> <li>・ 教科リーダーに辞書を準備させておく</li> <li>・ 範読を聞かせて後、音読へ</li> <li>・ 形式段落に番号を付けさせておく</li> <li>・ 説明的な文章に含まれる文章の種類については挙げる事ができないことが予想されるため、文章の種類については指導が必要であり、含まれる要素についても指導が必要であるが、ここでは文章の種類（論説文であること）について簡単に触れ、詳しい要素は後で補足する</li> </ul>
説明的文章を読んで理解するためには、どのような点に気を付けて読んでいけばよかったらうか			
展開 25分	5 これまでの説明的文章の学習を想起し、説明的文章を読むための必要項目をノートに書き出す 6 発表し、全体で確認して、項目の特徴や役割を再確認する 7 他者の発表から、自分が挙げられなかったものを付け加えてノートに書く	<b>【既習事項を用いる】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生時から3年生時の「メディア社会を生きる」までで学習してきた内容から、思い付くものを挙げさせる</li> </ul> <b>予想される反応</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 序論、本論、結論など、構成がどうなっているか</li> <li>・ 問題提起は何か(どこか)</li> <li>・ 筆者の主張は何か(どこか)</li> <li>・ 要点を押さえながら読む</li> <li>・ 重要語句は何か</li> <li>・ 文頭の表現や接続詞</li> <li>・ 文末の表現                ~だ(断定)                ~だろう、~らしい(推量)</li> <li>・ 形式段落に分ける</li> <li>・ 意味段落に分ける</li> <li>・ 小見出しを付ける</li> <li>・ 中心文を探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個の作業とし、机間巡視をしながら達成状況をつかむ</li> </ul> <b>【評価】</b> A 予想される反応のうち5つ以上をノートに書いている B 予想される反応のうち三つは想起してノートに書いている <b>《手だて》</b> 予想される反応のうち最低一つは想起し、発表で挙げられたものをノートに整理して書く <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示だけで終わらず、それぞれの項目の意味を確認したり、どのように判断するのかについて触れるようにする</li> <li>・ 想起したものと、出来なかったものを分けて書くことで気付きを促す</li> </ul>
終末 5分	8 次時の学習内容を確認する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想起したものを振り返り、Gアップシートに取り組むことを伝える</li> </ul>

主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第一次・第2時）

(1) 目標

- ・想起した内容を具体的に使えるようにし、「生き物として生きる」の学習で使えるようにする

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 15分	1 前時に発表した想起事項を振り返る	【既習事項を想起する】 ・前時に想起した内容を振り返る	・前時に想起した事項をまとめ、紙板書として提示する ・各学級で想起したものを提示するなど、他の学級の発表内容も参考にさせる ・なぜなのか、どのように判断するかを発表させる
説明的文章の読み方を使いながら、問題を解いてみよう			
展開 25分	2 挙げられた項目を使いながらGアップシートを解き、確認する	【既習事項を用いる】 ・事実と意見、考察の書き分けはどのようになっているか	・Gアップシートは、「二年国語読3」を使用する ・解答に対して、なぜそのように判断したかを発表させる ・答え合わせ後に、挙げられた項目を用いて構成や展開、文末など問題文を分析し、学習の進め方のモデルとする  【評価B】 ・Gアップシートの問題が解ける 《手だて》 ・間違った部分を全体確認の場で修正させる (A 分析までしている)
終末 10分	3 自己評価をする	/	・以下の点について自己評価させる 説明的文章を読んで理解するためにはどのような点に気を付けて読めばよいか が解ったか 実際にそれを使って読めそうであるか 理解があやふやで不安な部分 ・不安な部分は発表させて確認する
	4 次時の確認をする		・本時で確認したことを用いて各自で「生き物として生きる」を読んで理解し、説明してもらうことを伝える

主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第一次・第3時）

（1）目標

- ・前時で想起した項目を用いながら、「生き物として生きる」を読んで、構成や筆者の主張、主張を導くための材料などについて分析し、文章を理解する

（2）展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 10分	1 本時の課題を確認して、学習の見通しをもつ		・文章の理解について、2時間で行うことを伝え、本時は個人の作業であり内容の確認は次の時間であることを伝える
	「生き物として生きる」を前の時間に確認した項目を用いて読み、内容や展開がどのようなになっているかを分析しよう（読みとり前編）		
展開 35分	2 全体で「生き物として生きる」を音読する		
	3 教師の提示した質問に対する答えを考えるための分析であることを理解する  4 前時までに確認した説明的文章を読み取るための視点を確認し、学習シートの項目に沿って「生き物として生きる」を分析する  [学習シートの基本構想] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     話題提示                      （内容・キーワード・意図）                      -----                      結論（筆者の主張）に至るまでの説明の過程がどのようなになっているか                      （内容・キーワード・意図）                      -----                      結論（筆者の主張・根拠）                 </div>	<b>【既習事項を用いる】</b> ・前時に確認した項目を使い、教材文を分析する ・分析の観点（項目）を整理して示す  <b>前時を踏まえた分析の観点</b> 話題提示と結論（筆者の主張）は何か 筆者の主張の根拠は何か 結論（筆者の主張）を導き出すためにどのような説明をしているか（論の内容） 内容相互の関係はどのようなになっているか（構成と構造） 重要語句とその意味 筆者の表現意図	・生徒の実態として、このような分析の仕方に慣れていないことが挙げられるため、何について答えればよいのかや分析の観点を提示する ・学習シートは、質問に答えるための作業シートである ・学習シートの記述の仕方についても説明する（形式段落を要約していくのではないことなど） ・表現の特徴（説明のために工夫していることや、まとまりがどのようにつながっているのか）、表現意図（なぜその内容をもってきているのかやなぜそのように書いているのか、ねらいは何か）などの、記入の仕方や考え方については説明する必要がある  <b>新学習指導要領での第2学年との差違</b> [第2学年] イ 文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容

			<p>の理解に役立てること</p> <p>[第3学年]</p> <p>イ <u>文章の論理の展開の仕方</u>， <u>場面や登場人物の設定の仕方</u> <u>をとらえ</u>，<u>内容の理解に役立</u> <u>てること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3学年では，上記を踏まえ，書き手の論理展開についての意図をとらえさせ，内容を理解させることが求められるため，表現意図について考えさせる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔評価〕</p> <p>A 項目のすべてを書き込むことができができ，根拠もメモしている</p> <p>B まとまりを分けることができると共にその内容が要約でき，キーワードや例示について書いている</p> <p>《手だて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習シートの書き方を再度説明する</li> <li>主張の位置とまとまりを分けるためのヒントを与える</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>あくまでも自分の考えで読み取らせることを主として，教えすぎないように留意する</li> </ul>
<p>終 末 5 分</p>	<p>5 自己評価をする</p> <p>6 次時の展開を確認する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時は分析中心であり，正しいかどうかを全体で確認することを伝える</li> </ul>

主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第一次・第4時）

実態により展開案の内容を変更した授業

(1) 目標

- ・序論の範囲，内容，表現の特徴について理解する

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 5分	1 本時の課題を確認する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・序論の部分を用いて，構成のとらえ方や内容のまとめ方，表現の特徴，キーワードのとらえ方を理解させ，本論と結論部分を読み取る際に，参考にさせる</li> </ul>
	学習シート問題1を使い，序論の部分をまとめよう		
展開 40分	2 序論の範囲を確認する  3 序論の内容をまとめ，学習シートに記入する  4 キーワードとその意味を学習シートに記入する  5 表現の特徴について考え学習シートにまとめる	<b>【既習事項を用いる】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の初め，段落の終わりに着目する</li> <li>・接続詞に着目する</li> <li>・段落相互の関係に着目する</li> <li>・文末表現に着目する</li> <li>・意味が述べられている言葉に着目する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える時間を取る</li> <li>・理由を付けて発表させる</li> <li>・少しでも自分の考えをもつことができたあたりで確認する</li> <li>・「便利」という言葉が本来の意味ではなく，筆者が定義していることに気付かせる</li> <li>・表現の特徴について説明する</li> <li>・気付いた部分を発表させる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b></p> <p>A 学習シート問題1の内容をすべて記入し，表現の特徴を二つ以上挙げている</p> <p>B 学習シート問題1の内容をすべて記入している《手だて》</p> <p>一斉指導で記入させる</p> </div>
終末 5分	6 自己評価  7 次時の予告		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本論と結論について，班内で考えを交流することを伝える</li> </ul>

主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第一次・第5時）

実態により展開案の内容を変更した授業

(1) 目標

- ・本論の構成と内容，筆者の主張を理解する

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 5分	1 本時の課題を確認する		・学習シート問題2と3について取り組むことを伝える
	本論の構成と内容，結論をまとめ，筆者の伝えたいことを読み取ろう		
展開 40分	2 本論から結論までがどのように分けられるのかを考える  3 個人で考えた後，班で話し合う  4 話し合った内容を黒板を使って発表し，全体で確認する ・本論の構成と内容 ・結論部分の筆者の主張	<b>【考えの表現と交流】</b> ・他者の考えから学び，補足修正する ・なぜそう考えたかを説明できるようにする	・個人で考える時間を取る ・個人の考えや班で話し合った内容，全体で確認した内容は学習シートに記入させる ・学習シートには個人の考えの部分と，班で話し合った内容や全体で確認した内容は色分けをして記入させる  ・どのように分けられるのか，どのような内容なのかを記入する ・違いが出た班の発表を使い，理由を発表させ，全体で考えさせる  ・余裕があれば，問題4まで考えさせる  ・解答を配布し，照らし合わせて確認させる
			<b>【評価】</b> A 学習シート問題4まで記入している B 学習シート問題2と問題3の内容をすべて記入している 《手だて》 全体確認で記入させる
終末 5分	5 自己評価  6 次時の予告	/	・比較読みをすることを伝える

主教材「生き物として生きる」の指導展開案（第二次・第6時）

（1）目 標

- ・主教材「生き物として生きる」（論説文）と副教材「生き物はつながりの中に」（論説文）の構成や論の展開を比較することをとおして、主張を導くための効果的な論理展開の仕方を理解し、主教材を評価する

（2）展 開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導 入  10 分	1 「生き物として生きる」の内容理解に関わる宿題の確認をする		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートの吹き出しの部分 ~ の問題をノートにやっ てきていることを前提として 答え合わせをする</li> <li>・発言と解答配布により答え合 わせをし、あまり時間をかけ ないようにする</li> </ul>
	2 本時の課題を確認して、学 習の見通しをもつ		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     二つの文章を比較して、「生き物として生きる」の文章の書き方について考えよう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、主張を伝えるための 論理展開はどうあればよいか を考える時間であることを伝 える</li> </ul>
	3 副教材「生き物はつなが りの中に」の分析を全体で 確認する	<p><b>【既習事項を用いる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かし て、副教材「生き物はつ ながりの中に」を分析する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題として提示し、「生き物 として生きる」の学習シート を参考に分析してくるよう に指示した</li> </ul>
	4 「生き物として生きる」と 「生き物はつながりの中に」 の論理展開を比較して、共 通点や違いなどを考える  (学習シート1)	<p><b>【比較して読む】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通点や差違を確認し、 論理展開のよさについて、 考える</li> <li>・問題提示（話題提示）と 主張の位置</li> <li>・文章全体の構成</li> <li>・論の展開（具体例）</li> <li>・表現の方法や意図</li> </ul> <p><b>【考えの表現と交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を基に説明する</li> <li>・質問しながら確認したり 修正したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はこのような学習活動に 慣れていないため、具体的に どのようなことを考えればよ いのかを細かく提示する</li> <li>・個人で考えることが難しい場 合は、班討議とする</li> <li>・同じ筆者が書いた、類似した テーマの作品であるが、構成 が違う文章であり、対象とす る読み手も違っている（小学 校6年生と中学校3年生）こ とに留意し、あくまでも論の 述べ方について考えさせる</li> <li>・発表で本論の構成について出</li> </ul>

・共通点や相違点をそれぞれの良さと  
とらえれば、学習シートの問題2は  
省略してもよいかもしれない。時間  
もないことが予想されるので、書け  
る生徒には書かせたい（評価A）

展 開	5 発表し全体で確認する		てこない場合は，文章構造図を提示して気付かせる
	7 学習シート1と2をふまえ、「生き物として生きる」の主張を導き出すための論理展開の良い点や妥当性について考え，全体発表しながら交流する (学習シート3)	<b>【考えの表現と交流】</b> ・根拠を基に説明する ・質問しながら確認したり修正したりする	・考えられるのであれば「こういうことが書いてあればもっと分かりやすい」とか，こういった点も知りたい」という観点も提示する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【評価】</b>            A 主教材の論の述べ方に対する自分の考えを，根拠に基づいて学習シートに書き，さらに，改善点を付け加えている            B 主教材の論の述べ方に対する自分の考えを，根拠に基づいて学習シートに書いている  <b>《手だて》</b>            主教材のどのような点がわかりやすかったか，感想の形で書かせる         </div>
	8 論説文の要素を確認し，効果的な主張の述べ方についてまとめる		・主張を述べるときに必要な要素は何かを二つの文章の特徴を基に確認させる ・学習シート問題1の共通点を用いる
終 末 5 分	9 自己評価をする		
	10 次時の確認をする		

教材「生き物として生きる」の指導展開案（第三次・第7時）

（1）目標

- ・「生き物として生きる」をお互いが読んでわかるように要約する
- ・筆者の主張に対して根拠を明確にして自分の考えを表現する

（2）展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 5分	1 本時の課題を確認して，学習の見通しを持つ		
	「生き物として生きる」を要約し，主張に対する自分の考えをもとう		
展開 40分	2 「生き物として生きる」をお互いが読んでわかるように要約し，筆者の主張に対する自分の考えをまとめて学習シートに書く	<p><b>【既習事項を用いる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かして，構成を考える</li> </ul> <p>〔要約のパターン〕</p> <p>文章中の用語をそのまま用いて，文章全体を短く言い換えたもの</p> <p>文章全体の意味を損なわないように，中心となる内容をまとめて直したもの</p> <p>読み手が自分なりに読み取った文章の内容を，再構成してまとめ直したもの</p> <p>（国語教育指導用語辞典 P.68）</p> <p>上記のどのパターンで書くかを意識させる（様式）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現させる場合，立場を明確にしたり，生活の中から具体的な根拠を挙げられるように考えさせるこれは次の「説得力のある文章を書こう」につながる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔評価〕</b></p> <p>A パターンに当てはめながら，キーワードをいくつか選んで要約し，社会生活や学校生活から根拠あげ，自分の考えを学習シートに記入している（ ・ パターンに沿って書いている）</p> <p>B パターンを意識しながら，キーワードを一つは使いながら要約し，立場を明確にして根拠を基に自分の考えを学習シートに記入している（ のパターン）</p> <p>《手だて》</p> <p>第4時で配布した解答を使いながら要約させ 学習シートに記入させる</p> </div>
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価</li> <li>・次時の確認をする</li> </ul>	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習シートを用いて交流し確認することを伝える</li> </ul>

教材「生き物として生きる」の指導展開案（第三次・第8時）

(1) 目標

- ・お互いの要約内容が妥当であるかを評価する
- ・他者の考えに対して、根拠を明確にして自分の考えを表現する

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 5分	1 本時の課題を確認する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">お互いの要約を評価し合い，考えを述べ合おう</div>		
	2 3名程度の小グループで交流し、「生き物として生きる」の内容のとらえが正しいか、相手に伝わりやすいものであるかを評価する（付箋に書いて貼る）  3 相手の考えに対する自分の考えを書く  <b>【付箋のイメージ】</b> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-top: 5px;">内容が合っているか 良い点・改善点 Aさん（書いた人）の 考えに対する（読んだ 人の）意見</div> 4 アドバイスを基に、自分の要約の修正点を赤ペンで書き込む  5 数名に発表させ、違うグループの評価を聞く	<b>【比較して読む】</b> ・他者と自分の書いたものを比べて、良さや改善点を評価する ・内容が正しいか矛盾点がないかを検討する ・他者の考えから気付いたことをメモして、それに対する自分の考えをもつ  <b>【考えの表現と交流】</b> ・根拠を基に自分の考えを説明する ・質問しながら確認したり修正したりする	・どのような項目を盛り込んだか、なぜその項目を取り上げたのかなど留意した点を聞き合ったり、発表したりするように指示する ・話すことで伝える場合もあるが、付箋紙を用いてアドバイスや主張に対する質問や意見を書かせて、相手の学習シートに貼らせる  <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">相手に対して ・内容に矛盾はないか ・読んで理解できるものであるか ・付け加えた方がよい点や削った方がよい点など 自分 ・他者のを読んで気づいた点かノートにメモ</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><b>【評価】</b> A パターンに当てはめながら、キーワードをいくつか選んで要約でき、社会生活や学校生活から根拠あげ、自分の意見を表現している（ ・ パターンに沿って書けている） B パターンを意識しながら、キーワードを一つは使いながら要約でき、根拠を基に自分の考えを表</div>

<p>展 開 40 分</p>	<p>6 論説文の要素を理解する</p>		<p>現している（ のパターン） 《手だて》 主張は何かを確認させ、主張に対する自分の考えを理由をつけて書かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論説文の要素の確認を「生き物として生きる」の内容から項目をあげさせながら行う</li> <li>・論説文の要素を以下に示す        典型としての序論、本論、結論の形式        主張と根拠        提案を含んでいること        説明のための具体的な例示        キーワードとその意味の持たせ方</li> <li>・時間があれば、その他の説明的文章の種類についても触れ、生活の場面との関連をおさえたい</li> </ul> <p>〔目指す生徒の姿の例として〕  <b>説明できる生徒</b>  <b>（第3・4時をとおしてA）</b>      「この文章は、 という問題について という筆者の主張を述べた文章です。主張を説明するために、 という事実や という例をあげながら、 という根拠に基づいて、筆者の主張が述べられています。全体の構成としては のようになっており、 型の文章であるといえます。重要な語句は であり、文章中では という意味で用いられている部分があります。」      （このように説明できるかどうかを問いかけて、発表できる生徒がいれば挙手により発表させる）</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>7 自己評価をする 8 次時の確認をする</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えについて、根拠を基にしているものや、経験に基づいて述べているものがあれば取り上げる</li> </ul>

5 「説得力のある文章を書こう 意見を主張する」の授業展開案

教材「説得力のある文章を書こう」の指導展開案（第四次・第9時）

(1) 目 標

- ・主張や構成，根拠の述べ方など，意見文の書き方について理解する

(2) 展 開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 5分	1 本時の課題を確認して，学習の見通しを持つ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに書いた作文を意見文として書き直すことを伝える</li> <li>・「生き物として生きる」の学習内容を活用することを伝える</li> </ul>
	説得力のある文章は，どのように書けばよいか		
展 開 40分	2 P.147の例文を読み，主張，根拠，提案がどのようなもので，どこに書かれているかを考える	<p><b>【既習事項を用いる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生き物として生きる」の学習を生かして，主張と根拠，提案の他に，どのような内容と展開であるかを読み取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験，体験から考えたこと，問題点，反論と意見，主張，提案という流れである</li> <li>・体験と体験から考えたことが根拠になっていることを確認する</li> </ul>
	3 教材文P.146～P.150を学習し意見文の書き方について理解する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と意見の書き分けについての例示として，「生き物として生きる」本論の を用いるなど，必要に応じて「生き物として生きる」の内容を例として示す</li> </ul>
	4 「生き物として生きる」の学習で理解した構成や論の展開を復習する	<p><b>【既習事項の想起】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文の様式として「生き物として生きる」の構成や構造を想起する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論説文の要素についてふれていない場合は，ここでふれて確認する <ul style="list-style-type: none"> <li>典型としての序論 本論，結論の形式</li> <li>主張と根拠</li> <li>提案を含んでいること</li> <li>説明のための具体的な例示</li> <li>キーワードとその意味の もたせ方</li> </ul> </li> </ul>
	5 例示の仕方や引用について理解する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞や参考文献として読んだ本の内容を用いる場合の書き方を教える</li> </ul>

	<p>6 P.146~P.150の学習内容と「生き物として生きる」の論の述べ方を参考に、意見文を書くことの見通しをもつ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引用の仕方については出てきていないため、ここで説明し意見文を書くための材料の一つとして意識させる</li> <li>・例示と引用について <ul style="list-style-type: none"> <li>「例えば～」</li> <li>「～によると～という結果が見られる」</li> <li>「～の調査では、～という数値が示されている」</li> <li>「～には、～と書かれてあった」</li> <li>「～さんが～に書いた文章の中に～という内容があった」</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b></p> <p>A 意見文を書くために必要な要素を、P.146~P.150と「生き物として生きる」の論の述べ方から挙げ、発表できる</p> <p>B 意見文を書くために必要な要素を、P.146~P.150の中から挙げ、発表できる 《手だて》 ノートを見ながら答えさせる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に書く、意見文の様式については次時に示す</li> </ul>
<p>終 末 5 分</p>	<p>7 自己評価をする</p> <p>8 次時の確認をする</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な資料があれば持ってきてよいことを伝える</li> </ul>

教材「説得力のある文章を書こう」の指導展開案（第五次・第10時～第12時）

（１）目 標

- ・主張と根拠を明らかにし、「生き物として生きる」の様式にあわせて、夏休みに宿題として書いた作文を原稿用紙三枚程度の意見文に書き直す

（２）展 開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導 入	1 課題を確認して、学習の見通しを持つ		
	主張と根拠をはっきりさせ、「生き物として生きる」の構成に合わせて意見文に書き直そう		
	2 意見文を書くための条件を確認する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P.146～P.150で学習した内容を踏まえることを伝える</li> <li>・ 「生き物として生きる」での学習内容を活用することを伝える</li> <li>・ 伝える相手は同級生とする</li> <li>・ 夏休みの宿題の作文を配布する</li> </ul>
展 開	3 様式を理解する	<p><b>【既習事項を用いる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休みの宿題であったテーマや様式の違う作文を用いる</li> <li>・ 「生き物として生きる」の学習内容を用いる（構成と構造、表現の特徴など）</li> <li>・ 前時の学習を想起する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P.146～P.150の学習内容と「生き物として生きる」の構成と構造を組み合わせた様式を示す（学習シート）</li> <li>・ ノートに項目ごとの内容を簡単に書かせながら整理させる</li> <li>・ 足りない内容や付け加えたい内容があれば書かせる</li> <li>・ 自分が書いた作文を意見文に書き直すのであって、新しいものを書くのではないことに注意させる</li> <li>・ 構想メモからの作業は、進度の個人差が出るため、机間巡視をしながら個別指導に当たる</li> <li>・ 「生き物として生きる」の表現の特徴を想起させ、参考にさせる</li> </ul>
	4 自分の作文の内容を使いながら、様式に沿ってノートに構想を練る		
	5 構想に従って原稿用紙三枚程度の意見文に書き直す		

	<p>6 自分が書いた意見文を読み直し，推敲する</p>		<p><b>〔評価〕</b></p> <p>A 必要な条件を満たし，キーワードや具体的な例示，引用，自分の生活と結びつけた事項などを挙げながら，1000字以上の意見文を書いている (原稿用紙)</p> <p>B 必要な条件を満たし，具体的な例示を挙げながら，800字以上意見文を書いている(原稿用紙)</p> <p>《手だて》</p> <p>主張や根拠(なぜそう考えたのかやどこからそう考えたのか)，問題点を詳しく表現できるように考え方のヒントを与える</p>
<p>終末</p>	<p>7 次時の確認をする</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p>・交流を行い，お互いの意見文を評価しあうことを予告する</p>

教材「説得力のある文章を書こう」の指導展開案（第六次・第13時）

(1) 目標

- ・交流をとおしてお互いの意見文を評価し，他者の意見に対する自分の考えを表現する

(2) 展開

	主な学習活動	三つの学習	留意事項と評価
導入 10分	1 課題を確認して，学習の見通しを持つ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">お互いの意見文を読み合って評価しよう</div>		
	2 交流の目的と，交流するための観点を確認する		・交流のための観点を示した学習シートを用いる
展開 30分	3 3名程度の小グループを作り，観点到って交流を行う	<b>【既習事項を用いる】</b> ・様式をもとに，意見文を判断する（判断することができる） ・3名程度の小グループ交流の学習形態と交流の仕方を用いる	<b>《交流のねらい》</b> 既習事項を用いながら，意見文を <b>読み取れる</b> こと ↓
	4 交流のための観点到って付箋紙に書き込み，相手の意見文に貼る	既習の学習内容をもとに意見文を評価することをねらいとするが，評価の基準を明確にするために学習シートを用いる	・様式に沿って書けているかを判断できること及び，改善点をアドバイスできること ・主張や根拠がわかること及び改善点をアドバイスできること 他者の意見文に対して，自分の <b>考えを表現する</b> こと ↓
	5 交流で指摘されたアドバイスを基に，自分の意見文を修正する	<b>【考えの表現と交流】</b> ・様式に沿って書けているかの判断とアドバイス ・他者の考えに対する自分の意見	・賛成，反対の立場を明確にして，根拠をもとに意見を述べるができること  <b>《交流のゴール》</b> ・構成の正否や改善点（このように書くとよいのではとか，自分ならばこう書くなど）を指摘し合った後，自分の意見文を修正する ・書き直すのではなく，朱筆で書き込むようにさせる  ・質問しながら行ってよいことを伝える

	<p>6 交流の内容やどのように修正したかを紹介する</p> <p>7 交流をとおして気付いたことを発表する</p>	<p>読むことを中心とした評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の際，必要であればもとの作文と比較させて読ませてもよい</li> <li>・「生き物として生きる」の表現の特徴を用いて書いたものを発表させる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔評価〕</b></p> <p>A 他者の意見文が様式に沿っているかを判断でき具体的なアドバイスを与えることができると共に，他者の意見に対して立場や根拠を明確にして考えを述べている（付箋）</p> <p>B 他者の意見文が様式に沿っているかを判断でき，他者の意見に対して自分の考えを述べている（付箋）</p> <p>《手だて》</p> <p>他者の意見文に対して感想を述べさせ，アドバイスを参考に自分の意見文を修正させる</p> </div>
<p>終 末 10 分</p>	<p>8 「生き物として生きる」と「説得力のある文章を書こう」の学習についての感想を書く</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章の理解について考えを述べているをものを紹介する</li> <li>・自己評価の部分に，自分が以前に書いた作文と今回書いた意見文を比較してみてもの違いや気付いたこと，感想などを書かせる</li> </ul>

困りました。この文章はいつたい何を伝えたいのでしょうか。皆さん、先生に教えてください。  
 私が知りたいのは次の点です。よろしくお願いします。  
 筆者の主張とその根拠  
 主張を述べるために、どのような内容を幾つ並べているのか  
 その内容と内容の関係はどのようなものか  
 この文章の表現や書き方の特徴は何だろうか  
 なぜ筆者はこのような内容や表現でこの文章を書いたのかな



苦悩する菊池先生

「生き物として生きる」(中村桂子)の文章構成と内容

1 どのような話題から論を始めているか(その部分の形式段落)		内容
キーワードと意味	表現の特徴や意図など	私たちの日常生活には冷蔵庫など様々な便利な機械が入り込んでいて、便利な機械のない生活は考えられなくなっている。私たちは、機械による便利さを享受して生きている。
・便利(思いどおり)のことが速くできること)	・「〜みよう」という呼びかけの表現を使い、読み手を引き込むような書き方をしていく。 ・機械が便利であることを強調している	

2 結論(筆者の主張)までの文章の展開はどのようなになっているか

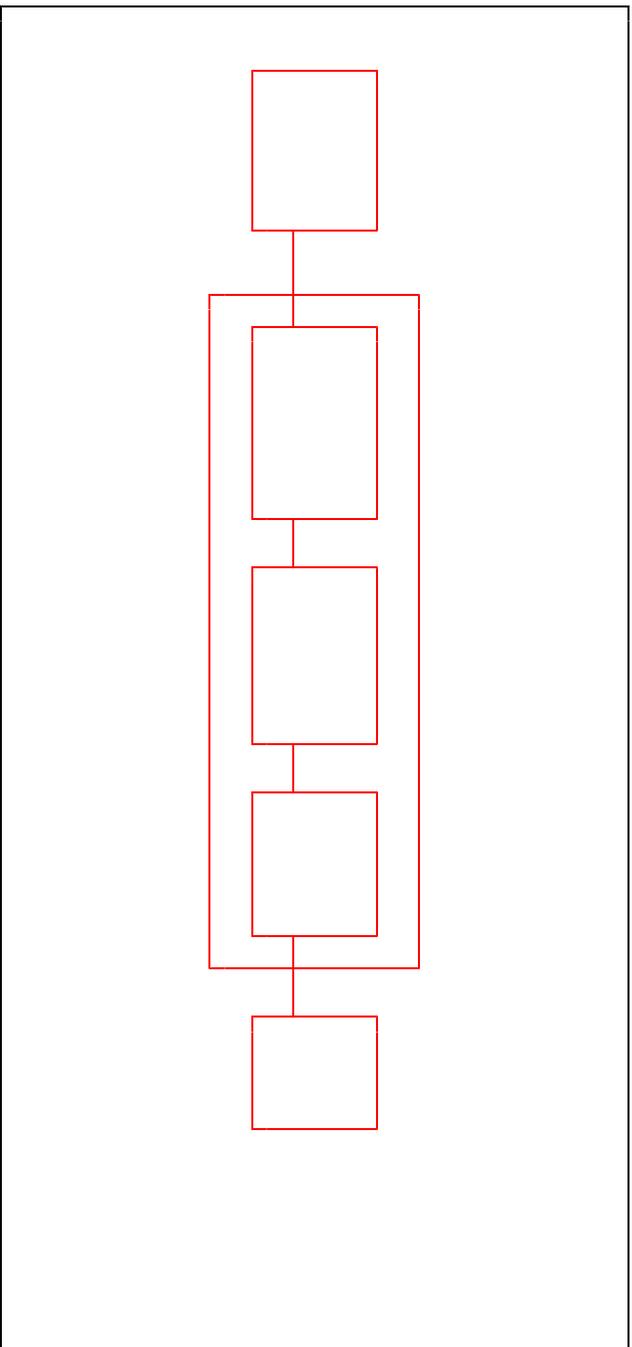
段落	見出し	内容	キーワードと意味	表現の特徴・意図
見出し	見出し	見出し	見出し	見出し
「人間に対する「作る」という考え方	「作る」という考え方	便利にするのはよいことだと考えるようになり、生き物に対しても機械を作ることと同じような考えを持ち始め、温室のトマトのように多くのエネルギーを使って野菜を一年中店頭に並べるようになった。	・育つ(機械との対比) ・作る(思いどおり)になるとか、思いどおりにしたいという気持ちが入っているもの)	・前のまとまりの「作る」「生き物」のつながりで書いている ・「思いどおり」の必要な例を述べている。 ・例を出して危険性を問いの形で書いている
「人間に対する「作る」という考え方	「作る」という考え方	思いどおりにしようという考えが人間にまで向けられ、医療技術も進歩したが、人間の体はよくわかっていない部分も多く、予測できない結果が生まれる可能性もあるので、思いどおりにしたいという考えには歯止めをかける必要がある。	・子供を授かる(自然に生まれる) ・子供を作る(思いどおりにした)	

	遺伝子の仕組みと意味	人間を機械のように考えるようになったのは遺伝子の知識からだが、遺伝子は設計図ではなく環境の違いで働きも変わる。違うことに意味がある。	遺伝子（機械の設計図とは違う環境で変わる、意味があるもの）	前のまとまりの機械のように考えるようになったことから述べている。 ・レシピの例を出してわかりやすく説明している。
--	------------	--	-------------------------------	---

3 どのような結論（筆者の主張）を述べているか（その部分の形式段落）

内容	キーワードと意味	筆者の主張の根拠
<p>便利さを生き物に当てはめようとするのは間違いではないか。人間の生き物なのだから、生き物として生きる暮らしを考える必要がある</p>	<p>・「作る」（前と同じ） ・不便（便利の対義語として書いている）</p>	<p>やの部分が、主張の根拠になっている。</p>

4 Gアップシート・問四のように文章の構成を図に表すとどうなりますか。Gアップシートを参考にしながら図式化してみてください。



【自己評価】 月 日（ 曜日）

・説明的文章を読むための注意点を使って「生き物として生きる」を読み、学習シートに記入することができたか（確認は次回行うので、前の時間に確認したことを用いて読んで書けたかで）。

・わかったこと・わからなかったこと・感想

A B C D

困りました。この文章はいつたい何を伝えたいのでしょうか。皆さん、先生に教えてください。

私が知りたいのは次の点です。よろしくお願いします。

筆者の主張とその根拠

主張を述べるために、どのような内容を幾つ並べているのか

その内容と内容の関係はどうなっているのか

この文章の表現や書き方の特徴は何だろう

なぜ筆者はそのような内容や表現でこの文章を書いたのかな



苦悩する菊池先生

「生き物として生きる」(中村桂子)の文章構成と内容

1 どのような話題から論を始めているか(その部分の形式段落)

内 容	
	キーワードと意味
	表現の特徴や意図など

2 結論(筆者の主張)までの文章の展開はどのようなになっているか

段落	見出し	内 容	キーワードと意味	表現の特徴・意図



皆さん、わたしの質問に答えることはできましたか。答えは次のようになります。解答に疑問のある人、質問を歓迎します。

自分の解答とあっているか同じような内容だと思えば、よくわからないという場合は×に をし、自己評価しましょう。



### 筆者の主張とその根拠

・筆者の主張は、「便利さを生き物に当てはめようとするのは間違いである。人間も生き物なのだから、生き物として生きる暮らしを考える必要がある。」ということ。その根拠は、人間の体は複雑であることや、本論の三つ目の遺伝子の働きが環境で違うことです。

( ) ・ ( )

### 主張を述べるためにどのような内容を幾つ並べているか

・機械の便利さの話題から、生き物に対して作る・人間に対して作る・遺伝子の仕組みというように、本論の中に三つの内容を並べています。

( ) ・ ( )

### その内容と内容の関係はどうなっているのか

・序論として機械の便利さをあげ生き物との比較につなげています。  
本論は、それぞれ前に述べた内容から発展させるような形で、前に述べた内容や言葉からつながるように書いています。

( ) ・ ( )

### この文章の表現や書き方の特徴は何だろう

の答えに付け加えて、次のことがあげられます。

- ・序論、本論、結論の様式です。
- ・具体的な例示が多くあげられています。
- ・何かと何かを比べるような書き方をしています。
- ・「〜みよう」など読み手を引き込むような書き方をしています。
- ・キーワードを筆者が意味づけています。

( ) ・ ( )

### なぜ筆者はそのような内容や表現でこの文章を書いたのかな

次のことが考えられます。 と照らし合わせて書いてみました。

- ・読んでいる人に考えがよく伝わるように。つまり、論の展開と読んでいる人の考えが同時進行するように。
- ・具体的な例示や比較が多いのも、身近なものとしてわかりやすくするため。
- ・読み手に自分の問題として考えさせるようにするため。
- ・特別な言葉であることを印象づけて、言葉の意味を頭において読むことで内容が理解しやすいように。

( ) ・ ( )

「生き物として生きる」と「生き物はつながりの中に」(中村桂子)を比較して、論の述べ方や主張の伝わりやすさを考える

【自己評価】

- ・比較して読む学習に入る前の確認です。「生き物はつながりの中に」を前の時間の学習を参考に分析して、理解できていますか。理解できていたならば始めましょう。確認したい人は先生を呼んでください。



1 二つの文章の、論の述べ方(文章の書き方・表現の特徴)の共通点と相違点は何か

共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的で身近な例を多く用いている</li> <li>・機械と生き物を比較して書いている</li> <li>・序論、本論、結論の構成になっている</li> <li>・本論が三つのまとまりで構成されている</li> <li>・キーワードを用いている</li> <li>・呼びかけなど読み手に語りかけるような表現がある</li> <li>・主張と根拠が示されている</li> <li>(内容として出る場合)</li> <li>・生き物として生きることが大切という、同じ主張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序論の書き方が違う(便利であることを述べる具体例と問題提起の違い)</li> <li>・本論の三つのまとまりの構成と展開の仕方が違う</li> <li>・「生き物はつながりの中に」は、本論をまとめた段落がある</li> <li>・文章自体の書き方が「生き物はつながりの中に」は簡単で読みやすい(小学6年生という読み手を意識しているため)</li> <li>・複数のキーワードと一つのキーワード</li> </ul>

2 主張を伝えるための論の述べ方(文章の書き方・表現の特徴)において、二つの文章のそれぞれの良さは何か

「生き物として生きる」	「生き物はつながりの中に」
<p>1で書いたこと他に、次の点が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードの意味が示されており、それを基に文章が読めること</li> <li>・キーワードや前に述べた内容からつながるように文章が展開しているので、それに沿って考えながら読めること</li> <li>・例示が細かく具体的なこと</li> <li>・序論で「便利な機械」を印象づけ、生き物はそうではないと比較して展開することで、主張に説得力を持たせていること</li> </ul>	<p>1で書いたこと他に、次の点が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この文章で何を考えればよいのかがはっきりと示されていること</li> <li>・ロボットの犬と本物の犬の比較がわかりやすいこと</li> <li>・三つの点から考えることが読み手に示されていてわかりやすいこと</li> <li>・対象とした読み手にわかるように書いてあること</li> <li>・一つのキーワードで文章が展開していくこと</li> </ul>



「生き物として生きる」を要約するとともに、筆者の主張に対する自分の考えを根拠を基にまとめる

1 「生き物として生きる」の要約( ) ( )

評価欄

アドバイ  
スや質問  
意見など  
を付箋紙  
に書いて  
はろう

2 筆者の主張に対する自分の考え

アドバイスを受けての修正は赤ペンで。書いたものは消さないこと。

【自己評価】 月 日 ( ) 曜日 ( )

- ・「生き物として生きる」を要約できたか。
- ・自分の考えを根拠を基に書くことができたか。
- ・わかったこと・わからなかったこと(疑問)・感想

( ) A A ( )  
 ( ) B B ( )  
 ( ) C C ( )  
 ( ) D D ( )

「生き物として生きる」を要約するとともに、筆者の主張に対する自分の考えを根拠を基にまとめる

## 「生き物として生きる」の要約例

文章中の言葉をそのまま用いて、文章全体を短く言い換える。

私たちの身近には、たくさん便利な機械がある。

便利な機械を作るのはよいことなので、生き物に対しても「作る」という考えを持ち始め、人間に対しても「作る」という考えを持ち始めた。しかし、人間の体は複雑であり、生き物の基本である遺伝子も環境によって働きが違うので予測できない結果が生まれる危険性がある。

よって、便利さを生き物に当てはめるのは間違いであり、人間も生き物として生きる暮らし方を考える必要がある。

文章全体の意味を損なわないように、中心となる内容をまとめて直して書く。

近年、便利さを求める余り、何事も思い通りにしようとする考え方が人間にまで向けられるようになった。ところが、人間の体は機械とは違い複雑で、手を加えると予測できない結果が生まれる危険性がある。また、遺伝子の働きも環境によって変わるので、思い通りにしようとするが無理が出る。

よって、便利さを生き物に当てはめるのは間違いであり、人間も生き物として生きる暮らし方を考える必要がある。

読み手が自分なりに読み取った文章の内容を、再構成してまとめ直して書く。

私たち自身を含めた「生き物」に対して、便利さを当てはめようとするのは間違いである。生き物を思い通りにしたいという考えを改め、生き物として生きる生活を考えるべきだ。

なぜなら、人間でいえば、体の仕組みがまだよくわかっていない部分が多く、手を加えると危険であるからであり、遺伝子の働きも環境によって違い同じにはならないからである。



組 番 氏名

### 1 【書き方】

次の図は、「説得力のある文章を書こう」と「生き物として生きる」で学習した内容をあわせて作った意見文の様式です。この様式に合わせて、自分の作文を意見文に書き直してみましよう。

結 論	本 論			序 論	構 成 内容及び構造
	本 論	本 論	本 論		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の主張</li> <li>提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見に対して予想される反論（問題点）とそれに対する解決策 （ただし、ここでこの内容を述べるために、本論のどこかで自分の意見を述べていなくてはなりません）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A・本論 の内容と関係していること</li> <li>B・主張を納得させるための説明の二つ目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A・序論の内容と関係していること</li> <li>序論で述べたキーワードに関係していること</li> <li>B・主張を納得させるための説明の一つ目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主張を述べるために効果的だと思ふ話題提示</li> <li>キーワードを設定するならば、その説明</li> <li>難しければ問題提起でもよい（「生き物はつながりの中に」を参照）</li> </ul>	

自分の作文を意見文に書き直すのです。内容を取捨選択したり足りない部分を補足するのはよいですが、一から新しいものを書くのはありません。

話題・例示・キーワードはすべて入れるということではありません。もちろん必要ならば入れてよいです。

文末に注意しましょう。

題名は主張がわかるように。

このように、「全体が序論・本論・結論の三つのまとまりであること、本論がさらに三つのまとまりからできていること」に合わせて書き直してみましよう。五段落構成で考えれば、書き直ししやすいのではないかと思ひます。

### 2 【交流の観点】

次の点に注意しながら、お互いの意見文を讀んで交流しましよう。

1 【書き方】で示した様式に合っているか。合っていない場合はアドバイス。

讀んだ意見文の主張とその根拠は何か（讀み手に伝わっているかな）。

書いた人の主張に対する自分の考え



付箋の書き方例  
内容のつながりが？  
の場合も指摘してあげましよう。

（合っている場合）  
×（合っていない場合や内容のつながりが？の場合）  
「～というように書くともよいと思う」など

主張は～ということ  
根拠は～ということ

私は～という意見には賛成です。～と思うからです。  
～ことも知りたひです。  
～という内容もあればよいと思ひます。

名前	より
<p>あなたの意見文は様式に            ( 合っている ・ ×合っていない )            アドバイス</p>	
<p>・あなたの意見文の主張は……………</p> <p style="text-align: right;">ですね！</p> <p>・根拠は……………</p> <p style="text-align: right;">ですね！</p>	
<p>あなたの主張と提案に対する私の意見</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

名前	より
<p>あなたの意見文は様式に            ( 合っている ・ ×合っていない )            アドバイス</p>	
<p>・あなたの意見文の主張は……………</p> <p style="text-align: right;">ですね！</p> <p>・根拠は……………</p> <p style="text-align: right;">ですね！</p>	
<p>あなたの主張と提案に対する私の意見</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

## 7 事後テスト問題と解答

### 第二学年 国語 「5 論理の展開」 事後テスト

1 次は、中学生の小石さんが、家庭科の時間に「住まい」について学習した内容を文化祭で発表するための原稿【A】と、そのときに使用する図【B】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

私は、家庭科の時間に「住まい」について勉強し、「住まいと家族」について考えました。

住まいは、風雨などの自然条件から私たちを守ってくれるものであり、睡眠や休養などのエネルギーの補給の場です。また、家族とともに暮らし支え合って生活を営む場です。<sup>1</sup> 住まいには、食事や団らんの空間、食事や洗濯などの家事作業の空間、個人生活の空間、トイレやお風呂などの生理生活の空間があります。家族はそれぞれ住まいに対して「自分一人の部屋が欲しい。」などの個人としての願いを持っています。<sup>2</sup> 住まいの形も、家族の願いや時代によって様々です。

現代社会の家族の形は、父親・母親・子供からなる家族、一人親の家族、祖父母と同居する家族など様々です。家族の役目は、心を休ませたり、子供の成長を支えたりする役目があると考えられています。そのためには、家族が精神的に安らぐ関係であることが大切です。ただ、<sup>3</sup> 家族でも生活の仕方や考え方が違うこともあり、それぞれの立場や考え方を尊重しながら生活することで家族の関係が作られていきます。

以上の点から、家族がそれぞれ持つ願いや生活の仕方を大切にしながら、<sup>4</sup> 家族みんなが顔を合わせて食事をしたり語り合ったりできるような空間があることがとても重要だと思いました。個人生活の空間を尊重することは大切だと思いますが、家族と語り合ったりする中で、自分が気がつかなかった考えを知ることができたり、悩みが解決できたりすると思うからです。現代は、家族との会話が少ないといわれているので、特に大切ではないでしょうか。

住まいは時代と共に変化していくと思いますが、これからの住まいは、個人空間より食事や団らんの空間が重要になり、「心の成長」を家族にもたらすものであることが重要だと思います。

一 小石さんは、【B】の図を提示しながら説明しようと考えています。この図は【A】の文章の 線部 1 から 4 のどこで提示するのが効果的でしょうか。1 から 4 のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

二 小石さんは、【B】の図と一緒に、設計した人の考えも紹介することにしました。次は、どの間取りを設計した人の考えですか。【B】の図のAからUのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

戸を開け放つことで共有できる空間を広くとることができ、部屋の行き来が自由になる。そのようにすることで閉鎖された空間が少なくなり、家族同士のコミュニケーションが図れるように設計した。

三 【A】の文章中に「これからの住まい」とありますが、あなたはどのような住まいであればよいと考えますか。次の条件 1 と条件 2 にしたがって書きなさい。

条件 1 「これからの住まいはどうか」についてのあなたの考えを書くこと。

条件 2 【B】の表に示されている、いずれかの間取りの特徴に触れること。

( 技術・家庭 家庭分野 開隆堂より )  
( 名作マンガの間取り 影山明仁 ソフトバンククリエイティブ株式会社 )

ア

【特徴】

- ・木造 地上一階
- ・昭和二十年頃の家
- ・家族が共有する空間は一カ所
- ・大家族で住むための家

影山明仁(2008),『名作マンガの間取り』,  
ソフトバンククリエイティブ株式会社より  
「サザエさん」の家の間取り図

イ

【特徴】

- ・木造 地上二階
- ・昭和四十年頃の家
- ・家族が集まる空間を二カ所取っている
- ・子供部屋を独立させ、子供の自立心を養う家

影山明仁(2008),『名作マンガの間取り』,  
ソフトバンククリエイティブ株式会社より  
「ドラえもん」の家の間取り図

ウ

【特徴】

- ・3LDKマンション
- ・地上四階(四階部分)
- ・平成十年頃の家
- ・南側に家族が集まる空間を広く配置している
- ・狭い空間を有効に活用して部屋を配置した家

影山明仁(2008),『名作マンガの間取り』,  
ソフトバンククリエイティブ株式会社より  
「あたしん家」の家の間取り図

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

寒い冬が北方から、狐の親子の棲んでいる森へもやって来ました。或朝洞穴から子供の狐が出ようとしましたが、「あつ」と叫んで眼を抑えながら母さん狐のところが、「母ちゃん、眼に何か刺さった、ぬいて頂戴早く早く」と言いました。母さん狐がびっくりして、あわてふためきながら、眼を抑えている子供の手を恐る恐るのけて見ましたが、何も刺さってはいませんでした。母さん狐は洞穴の入口から外へ出て始めてわけが解りました。昨夜のうちに、真白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からお陽さまがキラキラと照らしていたので、雪は眩しいほど反射していたのです。雪を知らなかった子供の狐は、あまり強い反射をうけたので、眼に何か刺さったと思ったのでした。雪の粉が、しぶきのように飛び散って小さい虹がすつと映るのでした。すると突然、うしろで、「どたどた、ざーっ」と物凄い音がして、パン粉のような粉雪が、ふわーっとなり狐におっかぶさって来ました。子狐はびっくりして、雪の中を這いながら雪が落ちてきたのでした。まだ枝と枝の間から白い絹糸のように雪がこぼれていました。間もなく洞穴へ帰って来た子狐は、「お母ちゃん、お手々が冷たい、お手々がちんちんする」と言っていて、濡れて牡丹色になった両手を母さん狐の前にさしだしました。母さん狐は、その手に、はーっとお息をふっかけて、「ぬくとい母さんの手でやんわり包んでやりながら、もうすぐ暖くなるよ、雪をさわると、すぐ暖くなるもんだよ」といいましたが、かあい坊やの手に霜焼ができてはかわいそうだから、夜になつたら、町まで行って、坊やのお手々にあうような毛糸の手袋を買ってやろうと思いましたが、暗い暗い夜が風呂敷のような影をひるげて野原や森を包みにやってきましたが、雪はあまり白いので、包んでも包んでも白く浮びあがっていました。親子の銀狐は洞穴から出ました。子供の方はお母さんのお腹の下へはいりこんで、そこからまんまるな眼をばちばちさせながら、あつちやこつちを見ながら歩いて行きました。母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ」とききました。「あれは町のお星さまじゃないのよ」と言っていて、その時母さん狐の足はすくんでしまいました。「あれは町の灯なんだよ」その町の灯を見た時、母さん狐は、ある時町へお友達と出かけて行って、とんだめにあったことを思い出しました。およしなさいっていつのもきかないで、お友達の狐が、或る家の家鴨を盗もうとしたので、お百姓に見つかって、さんざ追いまくられて、命からがら逃げたことでした。

「母ちゃん何してんの、早く行こうよ」と子供の狐がお腹の下から言うのでしたが、母さん狐はどうしても足がすすまない

のでした。そこで、しかたがないので、坊やだけを一人で町まで行かせることになりました。

「坊やお手々を片方お出し」とお母さん狐がいました。その手を、母さん狐はしばらく握っている間に、可愛い人間の

子供の手にしてしまいました。坊やの狐はその手をひろげたり握ったり、抓つかって見たり、嗅いで見たりしました。

「何だか変だな母ちゃん、これなあに？」と言って、雪あかりに、またその、人間の手に変えられてしまった自分の手をし

げしげと見つめました。

「それは人間の手よ。いいかい坊や、町へ行ったらね、たくさん人間の家があるからね、まず表に円い注1 シャツポの看板

のかかっている家を探すんだよ。それが見つかったらね、トントンと戸を叩いて、今晚はつて言うんだよ。そうするとね、

中から人間が、すこし戸をあけるからね、その戸の隙間すきまから、こっちの手、ほらこの人間の手をさし入れてね、この手に

ちようどいい手袋頂ちやうたい戴たいって言うんだよ、わかったね、決して、こっちのお手々を出しちゃ駄目よ」と母さん狐は言いきか

せました。

「どうして？」と坊やの狐はききかえしました。

「人間はね、相手が狐だと解ると、手袋を売ってくれないんだよ、それどころか、掴まえて檻かごの中へ入れちゃうんだよ、人

間つてほんとに怖いものなんだよ」

「ふーん」

「決して、こっちの手を出しちゃういけないよ、こっちの方、ほら人間の手の方をさしだすんだよ」と言って、母さんの狐は、

持つて来た二つの白銅貨を、人間の手の方へ握らせてやりました。

子供の狐は、町の灯を目あてに、雪あかりの野原をよちよちやって行きました。始めのうちは一つきりだった灯が二つに

なり三つになり、はては十にもふえました。狐の子供はそれを見て、灯には、星と同じように、赤いのや黄いのや青いのが

あるんだなと思えました。やがて町にはいりました。狐の子供はそれを見て、灯には、星と同じように、赤いのや黄いのや青いのが

光が、道の雪の上に落ちてはいるばかりでした。

けれど表の看板の上には大い小さな電燈でんとうがともっていましたので、狐の子は、それを見ながら、帽子屋を探して行きま

した。自転車の看板や、眼鏡の看板やその他いろいろな看板が、あるものは、新しいペンキで画かれ、或るものは、古い壁の

ようにはげていましたが、町に始めて出て来た子狐にはそれらのものがいったい何であるか分らないのでした。

とうとう帽子屋がみつかりました。お母さんが道々よく教えてくれた、黒い大きなシルクハットの帽子の看板が、青い電燈でんとう

に照されてかかっています。

「今晩は」

「狐は教えられた通り、トントンと戸を叩たたきました。

すると、中では何かこと音がしていました。戸が一寸ほどゴロリとあいて、光の帯が道の白い雪の上に長く

伸びました。

子狐はその光がまばゆかったので、めんくらって、まちがった方の手を、お母さまが出しちゃういけないと言ってよく

聞かせた方の手をすきまからさしこんでしまいました。

「このお手々にちようどいい手袋下さい」

すると帽子屋さんは、おやおやと思えました。狐の手です。狐の手が手袋をくれと申すのです。これはきつと木の葉で買

いに来たんだなと思えました。そこで、

「先にお金を下さい」と言いました。子狐はすなおに、握つて来た白銅貨を二つ帽子屋さんに渡しました。帽子屋さんはそ

れを人差指のさきにつけて、力手合せて見ると、チンチンとよい音がしましたので、これは木の葉じゃない、ほんとのお

金だと思えましたので、棚から子供用の毛糸の手袋をとり出して来て子狐の手に持たせてやりました。子狐は、お礼を言っ

てまた、もと来た道を帰り始めました。

「お母さんは、人間は恐ろしいものだ。仰おつ有つたがちつとも恐ろしくないや。だって僕の手を見てもどうもしなかつたも

の」と思いました。けれど子狐はいつたい人間なんてどんなものが見たいと思えました。

ある窓の下を通りかかると、人間の声がありました。何というやさしい、何という美しい、何と言うおっとりした声な

んでしよう。

「ねむれ ねむれ  
母の胸に、  
ねむれ ねむれ  
母の手に」

子狐はその唄うたは、きつと人間のお母さんの声にちがいないと思えました。だって、子狐が眠る時にも、やっぱり母さん

狐は、あんなやさしい声でゆすぶってくれるからです。

するとこんどは、子供の声がありました。森の子狐は寒い寒いって啼ないでるでしょうね」

「母ちゃん、こんな寒い夜は、森の子狐は寒い寒いって啼いでるでしょうね」

すると母さんの声が、

「森の子狐もお母さん狐のお唄うたをきいて、洞穴の中で眠ろうとしているでしょうね。さあ坊やも早くねんねしなさい。森の

子狐と坊やとどつちが早くねんねするか、きつと坊やの方が早くねんねしますよ」

それをきくと子狐は急にお母さんが恋しくなつて、お母さん狐の待つている方へ跳んで行きました。

お母さん狐は、心配しながら、坊やの狐の帰つて来るのを、今か今かとふるえながら待つていましたので、坊やが来ると、

暖い胸に抱きしめて泣きたいほどよるこびました。

二匹の狐は森の方へ帰つて行きました。月が出たので、狐の毛なみが銀色に光り、その足あとには、コバルトの影がたま

りました。

「母ちゃん、人間つてちつとも恐くないや」  
「どうして？」  
「坊、間違えてほんとうのお手々出しちゃったの。でも帽子屋さん、掴まえやしなかったもの。ちゃんとこんない暖

い手袋くれたもの」  
「と言つて手袋のはまった両手をパンパンやって見せました。お母さん狐は、  
「まあ！」とあきれましたが、「ほんとうに人間はいいものかしら。ほんとうに人間はいいものかしら」とつぶやきま

一 この文章の内容や表現について説明する場合、どのように説明したらよいですか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1 途中から一人で手袋を買いに行くことになった子供の狐は、帽子屋で間違って狐の手を差し出してしまい、結局手袋を買いことができず帰ってきた。このような内容が、常体を主とした文末表現で、時間の流れにそって情景をイメージしやすくように描かれています。

2 途中から一人で手袋を買いに行くことになった子供の狐は、帽子屋で間違って狐の手を差し出すのですが、無事に手袋を買いことができました。このような内容が、比喻表現を多く用いながら、敬体を主とした文末表現で丁寧に描かれています。

3 お母さん狐は子供のために手袋を買いに行こうとしましたが、足がすくんでしまい、子供を一人で買いに行かせることになりました。子供の狐が無事に手袋を買って帰ってきたことを大変喜ぶのでした。このような内容が、作品全体にわたってお母さん狐の目を通して見ているように描かれています。

4 お母さん狐は子供のために手袋を買いに行こうとしましたが、足がすくんでしまい、子供を一人で買いに行かせることになりました。子供の狐が手袋を買えずに帰ってきたことを悲しみ泣くのでした。このような内容が、親子の会話を多く入れることで心情がつかみやすいように描かれています。

二 次の部分を朗読する場合の工夫について、あとの問いに答えなさい。( から は、文の番号を表す。)

母さん狐がびつくりして、あわてふためきながら、眼を抑えている子供の手を恐る恐るとりのけて見ましたが、何も刺さってはいませんでした。  
母さん狐は洞穴の入口から外へ出て始めてわけが解りました。  
昨夜のうちに、真白な雪がどっさり降ったのです。  
その雪の上からお陽さまがキラキラと照っていたので、雪は眩しいほど反射していたのです。  
雪を知らなかった子供の狐は、あまり強い反射をうけたので、眼に何か刺さったと思ったのでした。

ア この部分を、話の展開に沿って大きく二つに分けるとすれば、どこで分けますか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 との間で分ける。
- 2 との間で分ける。
- 3 との間で分ける。
- 4 との間で分ける。



次は、ある小学校の職員室での会話です。三人の先生（谷村先生・瀬川先生・長島先生）が授業で使うプリントを作って持ち寄り、教頭先生を交えて話し合いをしています。

【A】の四人の先生の会話と、【B】に提示してある三枚のプリントを読んで、後の問に答えなさい。

【A】

教頭先生 「これは、段落の中で特別な意味を持った言葉を意識させるという点が良いね。確かに、その言葉と関係する内容で考えていけばまとめやすいでしょう。」

「こっちのプリントは、キーワードとなる言葉の見つけ方を具体的に示しているね。ただ、問題文と照らし合わせたときにどの言葉か迷う子も出てくるだろうね。」

「このプリントは、これまでの二枚とは違う視点で考えさせているのだね。 がわかれば、すぐに の答えが出るという仕組みだね。」

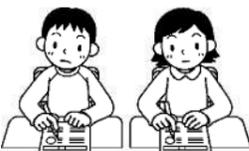
谷村先生 「はい。文章の内容を理解するための基本として作ったプリントです。子供たちが興味を持って取り組めるように具体的なものを挙げて作りました。」

瀬川先生 「読むのに時間がかからないように工夫しました。問題も簡単にしてすぐに確認できるようにしてあります。他の先生のプリントも大変参考になりますね。」

長島先生 「でも、考え方のポイントが一つだけなので、まだまだ工夫する必要があるそうですね。教頭先生がお持ちになっているプリントは何ですか。」

教頭先生 「うん、実は私も考えてみたんだがね。文章の内容をとらえる勉強で使うプリントとして、別の考え方で作ってみたのだが、こういうものはどうかと調べてね。」

私が作ったプリントと君たちのプリントを比べてみてくれないか。」



一 【A】の中で、教頭先生が評価している これ こっちのプリント このプリント は、それぞれのプリントにあたりですか。次の1から4のうち、プリントを作った先生の組み合わせとして最も適切なものを一つ選びなさい。

- |   |      |      |      |
|---|------|------|------|
| 1 | 谷村先生 | 瀬川先生 | 長島先生 |
| 2 | 谷村先生 | 長島先生 | 瀬川先生 |
| 3 | 長島先生 | 瀬川先生 | 谷村先生 |
| 4 | 長島先生 | 谷村先生 | 瀬川先生 |

二 三人の先生が作ったプリントには、共通した「学習のねらい」があります。これらのプリントは何ができることをねらったプリントでしょうか。「文章の内容が理解できること」以外で一つ書きなさい。

三 【A】の中に、「私が作ったプリントと君たちのプリントを比べてみてくれないか。」とありますが、四人の会話をふまえ、三人の先生が作ったプリントと教頭先生のプリントを比較して、その違いを説明しなさい。

スキルアップシート

四年 名前

大事な言葉は題名に関係のある言葉や、くり返し使われている言葉です。大事な言葉を使うと、段落の内容をまとめることができます。大事な言葉を見つけて、中心文をさがしましょう。

「野球がうまいチーム」

野球で大事なことの一つに、守備しゅびがあげられます。守備しゅびがうまくなるには、いろいろな練習をしなければなりません。まず、転がってきたボールを、からだのまん中で受ける練習をします。次は、グローブでつかんだボールを、手でしっかりとにぎる練習をします。そして、相手をよく見て投げる練習をします。野球がうまいチームは、このような守備しゅびのきほんをくり返し練習しています。打撃だげきの練習より長い時間をかけていることも多いのです。

①大事な言葉を○でかこみましょう。

②中心文に——線を引きましょう。

スキルアップシート

四年 名前

段落の内容をまとめるときに大事なものが中心文です。中心文には、前の内容をまとめるつなぎ言葉がついている時があります。つなぎ言葉を見つけて、中心文をさがしましょう。

㊦ アメンボとクモは似ています。どちらもこん虫なのでしょいか。

㊧ こん虫は、頭・むね・はらに分かれています。また、足は六本です。アメンボは頭・むね・はらに分かれています。クモは頭とはらに分かれています。アメンボの足は六本ですがクモの足は八本です。つまり、アメンボはこん虫ですが、クモはこん虫ではありません。

㊨ くわしく見ると、ちがいが分かります。

① ㊦の段落の中で、前に書いている内容をまとめるつなぎ言葉を○でかこみましょう。

② ㊨の段落の中心文に——線を引きましょう。

スキルアップシート

四年 名前

段落をまとめるとき、大事な言葉を使うと、内容に合うまとめ方ができます。ここでの大事な言葉は「食べ方」です。

魚にはいろいろな食べ方があります。みなさんが好きな「おさしみ」は、生で食べる食べ方です。サシマやホッケなどは、焼いて食べるとおいしいですね。それ以外には、にる食べ方、むす食べ方、「たたき」と言っただけあぶって食べる食べ方もあります。あなたは、どんな食べ方が好きですか。

① どんな食べ方が分かるところを○でかこみましょう。

② ①の言葉を使って、段落をまとめましょう。

Blank box for student response.

スキルアップシート

四年 名前

段落の初めにあるつなぎ言葉に気を付けると、段落のつながりが分かります。

㊦ ぼくはサッカーが好きです。好きな理由を教えてください。まず、大げいでできるからです。みんなでいっしょにプレーすると楽しいです。

㊧ そして、ゴールを入れるとうれしいことも、好きな理由です。みんなが声をかけてくれるので、ヒーローになった気分になります。

㊨ しかし、最近、ちがうスポーツも好きになってきました。それは野球です。

㊩ なぜかというと、二、三日前にテレビで、松坂選手がすばらしいピッチングをしているところを見たからです。

① ㊦㊧の段落を二つに分けると、ア・イのどちらに分けられますか。

② ①のように分けた理由を書きましょう。

Blank box for student response.

第三学年 5 論理の展開 事後テスト 解答用紙

組 番 氏 名

3			2						1							
三	二	一	三						二	一	三	二	一			
														ア	私 は 、  さん の 考 え に 賛 成 し ま す 。	イ
														80		
														120		
												■	解			
												■	評			
												■	表			

第三学年 5 論理の展開 事後テスト 解答

組 番 氏 名

③			②				①						
三	二	一	三		二	一	三	二	一				
<p>【解答例】</p> <p>三人の先生の作ったプリントは、大事な言葉や中心文を使って段落の内容をまとめることをねらいとしたプリントだが、教頭先生の作ったプリントは、つなぎ言葉を使って、段落のつながりやまとまりがわかるようになるためのものである。</p>	<p>段落の内容をまとめること</p>	4	<p>【解答例】</p> <p>私は、菊川さんの考えに賛成します。最後の帽子屋さんについて狐の親子の会話の部分から、狐の手と知りながら手袋を売ってくれた帽子屋さんの温かい気持ちを感じられ、人物像を想像したりできるからです。</p>	<p>【解答例】</p> <p>私は、大鳥さんの考えに賛成します。最後の場面を入れられない方がお母さん狐が恋しくなった子供の狐の気持ちと、子供の狐を心配し戻ってきたことに泣きたいほど喜んだお母さん狐の気持ちがかわ違って、余韻が強く残るからです。</p>	私 は 、  さん の 考 え に 賛 成 し ま す 。	ア 1	イ 3	<p>【解答例】</p> <p>・ これからの時代は高齢化が進み、お年寄りだけで生活するような家庭も多くなることが考えられる。よって、アの間取りのように、平屋で部屋が行き来が楽な住まいが望ましいのではないか。また、アの家は広い空間もあるなので、家族が遊びに来たときもゆったりと過ごせると思う。</p> <p>・ これからの時代は少子化が進み、家族の人数も多くない家庭が増えることが予想される。よって、必要最小限の空間が使いやすく配置されているウのような間取りの家が望ましいと思う。</p>	ア 2	2			
										解			
										評			
										表			